

(別添7)

事業所名 グループホームめずらハウス

## 2 目標達成計画

作成日: 平成28年3月27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23 26	高齢のご利用者の方は、いつその命を全うされるかわからない。職員はその方のその人らしい人生の実現を支援することが必要である。ご利用者が、毎日の生活の中で本当に自分らしく「楽しい。」と感じるときはいつなのか。と思うことは何なのかを、ご本人と一緒に考え、ご家族の協力を得て実行する必要がある。	ご利用者がその人らしく、日々の生活と人生を実現できる支援。	①職員会議にて説明。②職員が3グループに分かれ、担当のご利用者をアセスメントする。③職員会議にてアセスメント結果を検討し、実現目標を確認する。④支援計画を立てる⑤実行⑥チェック⑦評価⑧次の目標を設定する準備をする。	3月～6月 (4ヵ月)
2	53	ご利用者が、活動や心身の状況によって安心して過ごせる居場所を増やすことが必要。時には集団、時には2～3人のグループ、時には職員と1対1、そして居室で一人であるよりも、他者の存在を感じつつも一人で過ごしたい方。このようにご利用者に応じて生活環境を整えていくことは認知症ケアにとって重要であると気づく。	より居心地のいい空間づくりの実現。	①職員の「こうしたらいいのでは。」という職員のアイデアを積極的に意見交換する。②ご利用者の動線や安全を考慮しながら、家具の配置を考える。③ニーズを把握し空間づくりを実施する。④以前よりも居心地のいい空間であるかチェックする。	1ヶ月
3	27	ご利用者が不安なく安心して生活できるためのちょっとした気づきや、BPSDに対する対応策など、申し送り等にもっと積極的に活用されるべきと考える。なぜならば、ご利用者が安心して、落ち着いて生活できるということは、業務を行う職員の心身の状態も良好な状態であり、ストレスの軽減につながる。また、より良いケアを提供しようと前向きな職員が育成されると考えられる。職員の一人一人がどんな気づきを持って認知症ケアを実践しているのかをお互いを知る方法を模索する必要がある。	気づきのケアヒントを職員間で共有し、統一されたケアが提供できる。	①職員会議にて提供する。②2週間の期限を決め、個人の気づきを付箋に記入し掲示する。③お互いの気づきを知る。(集約)④個別ケアに生かす。⑤気づきのある業務うい意識できる。	1ヶ月